

飯能西中だより



# 天覧山

8月号

飯能市立飯能西中学校  
学校だより  
令和5年度 第5号  
令和5年8月25日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言え学校でありたい  
飯能西中学校スクールアイデンティティー

## 命の尊さをあらためて思う

校長 中村 公一

猛暑の夏が続く中ですが今日から2学期が始まります。長期予報によればこの暑さは9月に入ってもしばらく続くそうなので体調管理については十分に配慮していかなければなりません。

さて、この夏は新型コロナウイルスの影響によってこれまで中止や見合わせとなっていた多くの行事やイベントが行われました。楽しい思い出を作ることができた人も多いのではないのでしょうか。今年の全国高等学校野球選手権大会の開会式でも数年ぶりに選手全員による入場行進が行われ、いつもの夏が戻ってきたという懐かしさのようなものを感じました。ここ数年にわたるコロナ禍の経験は、私たち教員にとっては学校における授業のあり方を問い直すよいきっかけとなりましたが、それは社会全般においても同様で、これまで慣行に従ってきた仕事のやり方や催事のあり方なども見直され始めています。また、近年SDGsやLGBTQ+についての理解が深まっていることも相まって、前述の開会式における選手の入場行進の際には、これまで女子生徒に限られていた、プラカードなどを持って先導する係について、今年からは性別を問わないことになりました。さらに大会の決勝戦で優勝した慶応高校の監督やキャプテンが試合後のインタビューに「これまでの高校野球の常識を覆したかった」と語っていたのが私にとっては印象的でした。ゆっくりではありますがものの考え方や価値観などが確実に変わりつつあることを、高校野球を観ていても感じることができます。

ところで、この夏休み初日に福岡県で小学生3人が川で溺れて命を落とす痛ましい事故があったことをご記憶でしょうか。また、その1週間後には山形県で部活動に参加していた中学生が帰宅途中に亡くなるという事故があったのですが、その原因は熱中症とみられていることが全国ニュースで報道されたことから、先ほどの福岡の件と同じようにご存じの方が大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。このような痛ましい事故のニュースを目にするたびに、そのご両親やご家族のことを考えるといたたまれない気持ちになります。私事で恐縮ですが、私の娘も以前、部活中に熱中症で倒れて救急車で病院に搬送されたことがあります。幸い命にかかわるようなことにはならなかったのですが、学校から「娘さんの意識がはっきりしないので救急搬送します」という連絡を受けたときのショックは忘れられません。仕事を止めて急いで病院に向かう途中で頭の中に浮かんできたのは、その日の朝に娘と交わした会話です。「あのときもっと優しい言葉をかけておけばよかった」「いやきっと大丈夫」「でももしものことがあったらあれが最後の会話になってしまうんじゃないか」というように一縷の望みと後悔が頭の中をぐるぐると回っていて、娘の無事がわかった瞬間にまさにその場にへたり込んでしまうほどでした。私たち教員の仕事は子供の命を預かっているといっても過言ではありません。ほんのちょっとしたことがきっかけで命を落とすことがあるのだということを改めて心に刻み、慎重であることを厭わない姿勢や怖がる勇氣を持たなければならないと思います。

先月の学校だよりでもお話しをさせていただいたように、今月は平和の尊さを改めてよく考える月でもありました。毎年、8月6日に広島で開かれる平和記念式典では、広島の小中学生が「平和への誓い」を読み上げます。今年読み上げられた「平和への誓い」では、戦後78年にわたり苦しみながら生き抜いてきた方々への感謝と労りの気持ちが込められていたように思います。その上で、「自分の思いを伝える前に相手の気持ちを考えること」という小学生にとって当たり前のことを、私た

ち大人がどのように受け止めるのか問い直されているような気がしてなりません。日本人学校に勤務していた時に海外の友人から次のようなことを言われたことがあります。「私たちは平和は作る (build) ものだと考えるが、日本人は平和を守る (keep) ものだという。最初は違和感があったが、最近になって今の日本が平和である証なのだと思うようになった」というのです。私が「だから平和ボケと馬鹿にされることがあるけどそれについてはどう思う？」と尋ねたところ、「馬鹿にされても戦争しなくていいんだったらそっちのほうがいいじゃないか。大事なのは自分だけ戦争しなくていいじゃなくて、みんなが戦争しなくていいように何をするかなんだと思う。日本にしかできないことがあるんじゃないかな」と言われたのです。私にとっては大きく心を揺さぶられた一言でした。数年前から様々な著名人が、「もはや戦後ではない」という1956年の経済白書に書かれて有名になった言葉をもじって、「もはや戦後ではない、次の戦前だ」と今の世相を危惧するような言い方をするようになってきました。戦後78年という言い方はありきたりのように聞こえますが、来年も再来年もこれからもずっと戦後〇〇年と言い続けられることはむしろ尊いことなのかもしれません。

今年の「平和への誓い」から

- ・ 生き残ってくれてありがとう。
- ・ 命をつないでくれたからこそ、今、
- ・ 私たちは生きています。
- ・ 私たちにもできることがあります。
- ・ 自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。
- ・ 友達のよいところを見つけること。
- ・ みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

デジタルデトックスを知っていますか

生徒の皆さんへ

すでに多くの皆さんの生活の中で、スマートフォンやタブレット、パソコンといった情報機器（デジタルデバイス）はなくてはならないものになっているのではないのでしょうか。インターネットと結びついたデジタルデバイスは、誰もが手軽にどこでも誰とでもつながれる便利な道具であるばかりか、仕事や生活をする上ではなくてはならない物になっているといえます。言い換えるなら私たちはスマートフォンのようなデジタルデバイスに依存しなければ生きていけない状況になりつつあるわけです。問題はそういった機器にばかり依存していると、人間の脳が衰えていく心配があるということです。歩かずに自動車ばかりに乗っていると足腰が衰えるのと同じ理屈です。実際に最近の研究では同じ内容を学習する際に、電子媒体のテキストと紙媒体のテキストを使った場合では、紙媒体の物を使った場合のほうが、脳がよく働いていることがわかってきたそうです。しかしペーパーレス化は世界全体の流れであり、紙媒体の教科書を使えばいいということではありません。少しでもいいので一定時間デジタル機器から距離を置く時間を作って、現実世界や自然とのつながりを持って心身を休ませ人間本来の力を回復させる。これがデジタルデトックスの考え方です。よく勉強時間の合間に息抜きでスマホを操作するという人がいますが、スマホを使っている間も脳は休むことなく働き続けますから、脳の側から考えると実は息抜きではないのです。スマホから自由になる時間を作りましょう。

○ 8・9月の主な行事予定 ○

8月25日（金）2学期始業式	14日（木）英語弁論大会
28日（月）給食開始、自転車点検	20日（水）新人体育大会入間西部予選 給食なし
31日（金）とうのす学級宿泊学習	21日（木）新人戦（2日目）給食なし
9月1日（金）とうのす学級宿泊学習	22日（金）新人戦予備日
2日（土）PTA除草作業 8時30分～9時30分 体育祭に向けた校庭の除草作業 を行います。	26日（火）文化芸術事業
5日（火）4市テスト（3年生）	30日（土）新人戦入間地区代表決定戦
9日（土）体育祭	
11日（月）振替休業日	
12日（火）体育祭予備日	

文化芸術事業について

文化庁が推進する「文化芸術による子供育成推進事業芸術家の派遣事業」を利用してプロの音楽家を派遣してもらい、音楽鑑賞や音楽活動を行います。